

新装復刻版に寄せて

このたび四十年以上に前に翻訳した『ナイチンゲールと医師たち』を復刻するお話をいただき、久しぶりに読み返してみた。ナイチンゲール女史の大業については後述の「翻訳にあたって」「解題」のとおりである。

ヴィクトリア王朝時代、看護だけでなく、統計学、衛生学を名だたる学者に学び、当時の医学的先駆者である多くの医師たちと共働し、時には対決しながら生涯のほとんどすべてを医療に捧げたナイチンゲールの実像を学んでいただきたい。

晩年、病身のナイチンゲールはそれまでと違い、看護を受ける側から内面的にとらえ多くの事を提唱している。女性はすべて看護者であるべきとも説いた彼女の格言ともいえる珠玉の言葉の数々を本書から紐解いていただきたい。

約半世紀前に原書に出会った時、日本の多くの看護師・医師にこの本を伝えたいと思った。改めてナイチンゲール生誕二百年を機に復刻されることに感動を覚える。そして、百一歳と

なった今、こうして復刻に携わることが出来たことに感謝したい。

ナイチンゲールは、calling（召命・神のお召し）により人生を全うした女性であると強く思う。本書が多くのナイチンゲール研究の糸口となり、さらに深められていくとすればたいへん喜ばしいことである。

——すべからく、生命は Nursing Care と共にある。

Oxytocin（愛情ホルモン）をともなつて——

これは私の学びの言葉です。今、世界に急拡大している感染症の終息を切に願いつつ…

二〇二〇年四月

訳者を代表して 小池明子

序文

フローレンス・ナイチンゲールはその長い生涯のほとんどすべてを医療に捧げた。その結果、当時の医学的先駆者の多くの人物と文通し、面識をもっていた。私たちには現在なお有用で膨大な研究資料が残されているが、それは彼女の影響力がいかに偉大であったかを物語っている。それと同時に、彼女と一緒に仕事をした医師たちから多大な援助を受けたことも明らかにされている。

この書物に引用されているいくつかの手紙は、すでにナイチンゲールのすぐれた伝記のなかに紹介されているが、その大部分の手紙はいまだ出版されることがなくほとんど知られていないものである。この小著が、ヴィクトリア王朝時代における最も傑出した一女性の複雑な人間像を浮きぼりにすることができるならば、著者のこの上もない喜びである。

ザカリイ・コープ

第2章

ナイチンゲールに仕えた医師

ジョン・サザーランド博士(一八〇八—一八九二)

フローレンス・ナイチンゲールは、その生涯の歩みのなかで、すぐれた能力をもつ男性が献身的に助力せずにはいられないという驚くべき風格をもっていた。彼らは彼女の高い知性を賞賛していたし、彼女が病気がちになっても、高邁な使命に対して己を無にして奉仕することを知っていたのである。彼女は驚くべき意欲をもって衰弱に耐えていたが、彼らは彼女が病弱であることを心から哀れんでいた。一方ナイチンゲールは、自身が助力を望む人たちに近づく時には、いつも恭順な態度で臨んだが、一旦彼らの支持をとり付けるとすぐさま自分の使命の優越性を強調し、それに対して彼らが十分に傾倒してくれるように求めた。その結果、彼らの全身全霊を傾けて努力する善意を得ることに成功するのが常であった。ナイ

チンゲールの使命に共鳴した人たちはまさに彼女にとって弟のようであった。このような弟たちに対し、物を言いつけ、要求し、叱りつけ、また折に触れきわめて適切にほめるのであった。これはちょうどしっかり者の姉が辛抱強い従順な弟たちに対するのと同じであった。彼女は自分の抜きん出た力量を十分認識していたし、一度は一八六一年十二月十三日付、モール夫人あての手紙である人々の人生をも変えることのできる自分の影響力を誇らしげに語っている。これに対してモール夫人は、「女性の方が男性より感化 (sympathy) されやすい」と述べているが、ナイチンゲールはそれに答えて、「私がもし自分の経験をもとに本を書くならば『女性はそんなに容易に感化されない』という言葉で書き始めるでしょう」と述べている。また彼女は続けて次のように書いている。

「これまでに、私または私の意見によって人生観がほんの少しでも変わったという女性に出会ったことはありませんが、男性はあります。ここでその例をご紹介します。ある中年の政治家は四半世紀の間、政治に没頭していました。ところが、私と同じ考えをもったので人生と政策とを改造してしまいました。そのうえ、彼は人間の生命に関して管理する科学「看護のこと」——最も無味乾燥で、技術的で難解な科学——を私の側でソファアに腰かけて規則集をつくっている間に学んでしまったのです。私が生々しい経